



令和4年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 1 号

令和5年4月10日

学校教育目標

主体的に生きる人間の育成 <意欲・健康・豊かな心>

心はひとつに結ばれて

校長 大原 照光

芝川沿いが菜の花の黄色いじゅうたんに覆われ、ここ見沼のほとりにまた出会いの春が訪れました。本日、新たに148名の新入生を迎え、全校生徒439名、学級数14（通常学級12，特別支援学級2）、教職員47名で本校の令和5年度が始まりました。昨年度に引き続き、校長を務めてまいりますので、本年度もよろしく願いいたします。

さて、生徒が今後生きていくであろう社会は、急速な変化への適応、AIの台頭、グローバル化、持続可能な社会への取組など、実に多くの課題に対応していかななくてはならないことが予想されます。こうした社会の中で、生徒が社会の変化に対応し、課題を自分事としてとらえ、何ができるかを考え、そして実際に行動する、こうした「社会を生き抜く力」を身に付けることが現在の学校には求められていると考えます。

本校では「社会を生き抜く力」を身に付けることを「主体的に生きる人間の育成」に重ねて、本年度の学校教育目標を以下のようにいたしました。

学校教育目標

主体的に生きる人間の育成 ～意欲・健康・豊かな心～

<意欲> 「何事にも意欲的に取り組む生徒」

*自ら学ぶ力 *基礎学力 *判断力 *粘り強くやり続ける力

<健康> 「たくましい身体と強い意志をもつ生徒」

*充実した体力 *気力 *生涯にわたり学び続ける力

<豊かな心> 「相手を思いやり、豊かに人間性をつくることができる生徒」

*豊かな感性・情操 *多様性の理解 *世界を視野に入れたコミュニケーション

あわせて、昨年度の学校運営協議会において、本年度の学校運営の基本方針が承認されました。

学校運営の基本方針

- ① 信頼関係を基盤とした組織的な教育活動に努める。
- ② （18歳成人を踏まえ）生徒が社会の一員として、変化の激しい「社会を生き抜く力」を身に付ける教育活動を推進する。
- ③ 生徒を誰一人取り残すことなく、持続可能な社会の創り手として育成していく。
- ④ コミュニティ・スクールとして、家庭、地域、関係機関との連携を深め、地域全体での教育活動を推進する。
- ⑤ 教職員一人ひとりが自ら指導スキルの向上に努めるとともに、やりがい、生きがいを感じる職場環境づくりに努める。

表題にある「心ひとつに結ばれて」は、本校の校歌の一節です。この言葉のように、学校、家庭、地域が一つになって、子どもたちを地域の一員として、そして社会の一員として次の社会を担う人材を育んでいく「地域の学校」としていきたいを考えます。今年度もよろしく願いいたします。